



■	目次	■	説教	時は満ち、神の国は近づいた。 悔い改めて、福音を信じなさい。 …… 駒井 利則 …… 1
			教会の課題	信教の自由、お金と天皇制 …… 古賀 清敬 …… 2
			旧約聖書に聴く	「コヘレト、むなしさ」(一) …… 片野安久利 …… 3
			信仰問答を学ぶ	『ハイデルベルク信仰問答』(二) …… 登家 勝也 …… 4
			今、教会を考える	④ 教会共同体の賜物 …… 長谷川晴子 …… 5
			み言葉に照らされて	神の選び …… 徳永 博 …… 6
			さんびかに生かされて	讃美歌の思い出「賀川豊彦との出会い」 …… 川田 泰生 …… 6
			こいのにあ	邑久光明園、長島愛生園を訪ねて …… 天満由加里 …… 7
				見よ、兄弟が共に座っている …… 藤田 英夫 …… 7
				道南地区の牧師会 -日本キリスト教会小信仰問答の学びを中心に据えて- …… 久野 牧 …… 8
				教会ニュース …… 8



## 時は満ち、神の国は近づいた。 悔い改めて、福音を信じなさい。

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

(マルコによる福音書1章14-15節)

こま い とし のり  
駒 井 利 則

主イエスは、ヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けられ、荒野でサタンからの誘惑を受けられた後、神の国の福音を宣教されました。マルコによる福音書1章14-15節は、主イエスの公のご生涯の開始を告げる言葉であるとともに、主イエスのご生涯全体のお働きをまとめる言葉でもあります。主イエスのご生涯のすべては神の国の福音を宣べ伝えるための歩みでした。主イエスがこの世においでくださったこと自体が神の国が到来したことのしるしであり、神の国の福音そのものであり、そしてそのご生涯の終わりに、わたしたちの罪のために十字架で死んでくださったことこそが、その福音の頂点であると言えます。

「ヨハネが捕らえられた後」(14節)、主イエスの宣教が開始されました。洗礼者ヨハネはメシア・救い主のために道を準備する先駆者でしたが、ヘロデ王によって捕らえられ、処刑されます(6章14節以下参照)。けれども、神が始められた救いのご計画は、この世のいかなる権力や暴力によっても、決して変更されることも中断されることもありません。それらを超えて、ヨハネの死をも超えて、神の救いのご計画は続けられ、メシア・救い主ご自身であられる主イエス・キリストへと受け継がれ、最後の成就と完成の時へと向かって前進していきます。洗礼者ヨハネは旧約聖書の預言者たちの列の最後に立ち、来るべきメシアの最も近くで、メシアの到来を預言し、彼自身の苦難と死をとおしてメシア・キリストを証しました。

「神の国」とは、神の恵みによるご支配のことで

す。神の国では神が王として支配しておられますから、そこでは神の恵みと愛が、神の義と救いが満ちています。そこでは、罪と悪は力を失い、死の支配が終わりを告げられます。

それゆえに、神の国の到来は福音、喜ばしいおとずれです。この福音書の1章1節には「神の子イエス・キリストの福音の初め」と書かれていました。また、14節では「神の福音」と言われています。この福音は天におられる神から与えられた福音であり、神のみ子主イエス・キリストによってわたしたちに差し出された福音です。人間がこの世で手に入れることができるようなもろもろの喜びとは違って、いつまでも変わらない永遠の喜び、すべての人にとっての最高の喜びであり、そして地上のすべての喜びが消え去った後にもなお残り続ける喜び、この世の憂いや悲しみ、不安と恐れをも喜びに変えていく、そのような大きな喜びです。わたしたちがクリスマスの日聞いたあの大きな喜び、「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ、主メシアである」(ルカ2章10節、11節)と語られていた喜びのおとずれです。

神の福音を聞かされたわたしたちは、悔い改めをもってこれを信じる以外にありません。なぜなら、わたしたちはその福音を受けるに値しない者であるからです。ただ、神からの一方的な恵みと憐みによって与えられているからです。日々、悔い改めつつ、主の福音を信じて歩み続けましょう。

(南柏教会牧師)